

絶好調

「新選組！」と

新選組ドラマの歴史



これまでの近藤像を一新したフレッシュな香取近藤。これまで近藤役と言えば高橋幸治、夏八木勲、若山富三郎、三船敏郎、松方弘樹、伊武雅刀ら大物やベテラン勢の役だった。

これまでの近藤像を一新したフレッシュな香取近藤。これまで近藤役と言えば高橋幸治、夏八木勲、若山富三郎、三船敏郎、松方弘樹、伊武雅刀ら大物やベテラン勢の役だった。

20%以上の視聴率で好調のNHK大河ドラマ「新選組！」（日曜夜8時）は、三谷幸喜の新解釈による脚本と香取慎吾のフレッシュな近藤勇像で、これまでにない新選組を描いている。さて、新選組という時代劇の定番も、おなじみとなつた歴史は意外に新しい。その契機となつたのが「新選組始末記」（61年・TBS）。子母沢寛原作によるこのドラマは高視聴率を記録、あまりの人気に大映が映画化、新橋演舞場で上演もされ連日満員を記録した。配役は中村竹彌（近藤）、戸浦六宏（土方）、明知十三郎（沖田）。次に登場するのが名作「新選組血風録」（65年・テレビ朝日）。司馬遼太郎の原作を結束信二が見事に脚本化。栗塚旭の土方、島田順司の沖田はまさにつまり役で、土方・沖田のイメージのスタンダードとなり、近藤は船橋元が演じた。そしてこの番組と同じスタッフ・配役により制作された「燃えよ剣」（70年・テレビ朝日）こそが、新選組ドラマ不滅の金字塔なのである。この番組の人気で、これまで聞散としていた専称寺の沖田の墓に連日参拝者が訪れるようになった。意外に新選組と縁深いのが東山洋次である。この番組の人気で、夫が沖田を演じた「沖田総司」の決闘」（92年・TBS）で沖田を演じている。沖田と言えば記録を見ると、68年に梅宮辰夫が沖田人を演じた。意味で現在筆者が最も気なる新選組ドラマである。

山田洋次監督を中心に行われた「隱し剣・鬼の爪」記者会見。1日1シーンという入念な撮影は前回同様。今秋松竹系公演予定



「新・必殺からくり人」

浮世絵に込められたヒントが手掛かりの殺し屋という設定が斬新。「新・必殺からくり人」はキングレコードよりDVD発売中



安藤廣重の浮世絵「東清道五十三次」には殺しの依頼が込められていたという大胆な発想で描かれたのが必殺シリーズ第11弾「新・必殺からくり人」だ。許せぬ恩讐を金をもって間に飾る「からくり人」のお馴（山田五十鈴）は旅芸人一座の座長でもあり、安藤廣重から依頼を受け、浮世絵に描き込まれたヒントを手掛かりに諸侯を旅しながら悪人を始末する。浮世絵を火にあぶるとキーワードとなる部分が赤く浮かび上がる仕掛けだ。座長のからくり人は火を吹いて相手を焼き殺す平ラフ（芦屋雁之助）。コマを飛ばして相手の眉間に突き刺すお駒（ジュディ・オング）。催眠術を使う塙八（古今亭志ん朝）。そして投人に追われる蘭学者・高野長英（近藤正臣）ら。

監督は時代劇に肯定的で、「これまで描いていた時代劇への不満を自分で手本で消化しよう」と初めて演出したのが「たそがれ清兵衛」。その作品が好評され、「05年度の映画賞を睨まなにする事となるのは杞憂に新しい」。山田監督は当初、時代劇に魅せられ「せっかく手本でなくして自分が書かないのはもったいない」と「たそがれ」、同様、藤原周平の原作「隱し剣」シリーズの「隠し剣・鬼の爪」と「雪明かり」を脚本化。本年3月より松竹京都映画撮影所で周到な準備を重ねて撮影に臨んでいる。出演は永瀬正敏、松たか子、吉岡美穂、小堀謙太、猪俣智子、高島礼子、田中邦衛、倍賞千恵子、小林聰美、諸星翠など今

「たそがれ清兵衛」から2年
巨匠・山田洋次が
再び時代劇に挑む！
「隠し剣・鬼の爪」

（青ざむ）シリーズを始め、数々の名作を世に送り出した山田洋次

京都発の名犬・再び銀幕を席卷！
「盲導犬クイール」



ベストセラーを映画化した「白い犬とワルツ」が撮影された電車で、今度は盲導犬クイールが撮影された。すっかり名犬映画の産地となった龜岡だ。クイールはれっきとした龜岡出身の名犬なのだ。龜岡に実在した盲導犬クイールの生涯をモノクロ写真と文章で綴った「盲導犬クイールの一生」（文芸春秋社刊）は現在70万部のベストセラー。昨年夏にはNHKでドラマ化もされて高視聴率を記録。映画は昨年9月より龜岡で撮影され、クイール役に生後10日から成犬、老犬と成長過程合わせて100頭近くラブラドール・レトリバーが集められた。しかしいくら訓練された犬でも思うように演技をしてくれず。通常の劇映画の5倍という45時間分のフィルムを回したという。出演は小林薫、椎名桔平、寺島しのぶ、名取裕子ら、崔洋一監督作品。現在松竹系にて公開中。



「白い犬」に続く純黒狂犬の名犬クイール、龜岡と言えば「カタクリ家」も撮影場所。すっかり映画撮影の名所に

今月の言葉

怒涛の様な1月～2月も終わり、3月からは落ち着いて仕事を出来るかな？という状況だが何分ヤクザな事業故に、バタッと仕事を途切れやも知れず。最近の個人的トピックは何と言っても京極氏の直木賞受賞。2月に行われた受賞記念パティは3次会までなだれ込み、お開きになったのは翌日の朝5時。始発の新幹線で帰った小学生が、後で聞くと解散後も夜に再び有志が集まつて盛り上がったとの事。いややはやそのタフさには脱帽。

責任編集人
山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデュース、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活動の作家、映画関連著作多数執筆。

2004年4月1日 山田誠二

沢口靖子
「新・科捜研の女」

八幡美和子
「時代劇のビッグ・ヒーロー」

山田洋次
「時代劇のビッグ・ヒーロー」

やわた流れ橋時代劇
トピックス